

「人類の幸福のための研究」

Research and Development for Mankind's and worldwide happiness

常務取締役
塗料事業部営業統括
藤田昭文

Akifumi
Fujita



日頃は『塗料の研究』をご愛読いただき、また、貴重なご意見を頂戴し、誠に有り難うございます。

弊社は、製造会社であります。「会社の信用を重んじ、顧客に満足される製品を供給することによって社会に貢献する」ことを社是としております。開発した製品を市場で評価を戴き、お客様に満足いただけることが最大の目標であり、結果として弊社も利益をあげさせていただく会社であります。しかしながら、お客様に永続的に満足いただくためには、同じ製品を売りつづけることでは達成できません。何故なら、現代は技術開発のスピード化、ニーズの早期陳腐化さらに多様化などにより製品が汎用化し、競争が激化している時代であり、その中で生き残らなければならぬからです。

先進的な会社、世に言うエクセレント・カンパニーでは、3年で製品が入れ替わると言います。しかし、そこまで行くと「開発費と収益性」のバランスを如何に効率的に考えるか、という命題に突き当たります。従って、塗料会社としては、毎年、種々の新製品を投入することで、企業の永続性を目指したいところです。

そうするためには、独創的な技術の先行開発が必須条件であります。しかしながら、お客様に満足を戴くことは絶対条件であ

りますから、技術開発は製品開発と表裏一体でなければなりません。常に市場展開が視野になければなりません。その上に独創的な製品で勝負しようとするれば、先進的要素技術開発が必要で、「研究」とは、それを追求することを意味していると思います。学術的であるか否かは、企業としてはそれ程大事なことはありませんが、技術そのものは特許性を含めた独自のなものであることが必要です。

そのためには、モノの本質を強烈に意識しながら、なおかつ時間も意識しながら、新技術を開発することは、技術者にとってはプレッシャーのかかることではありますが、そういう環境においてこそ技術者としての存在感が凝縮され、新しいアイデアが生まれるのではないかと思います。弊社の技術陣の望まれる姿であります。

そういう研究活動を支えるのは、地球環境への認識がますます高まりを見せる中、企業活動の方向性は、大きな制約を受けつつも、将来の人類の幸福を如何に追求するか、ということ常念頭において研究を重ねることが技術開発のキーワードであろうと思います。

他の追随を許さないユニークな製品が次から次と生まれてくることを、当社にご期待いただきたいと思います。